第139号/ ふじのくに静岡県

消防学校ニュース

令和5年6月号

特集 第1回 野外訓練 in 浜石岳

～きつい 疲れた もうだめだでは 人の命は 救えない～

令和５年５月 25 日（木）、初任科 第 94 期の学生達は、初夏らしい太陽が照りつける空の下、約 20 kgの資器材（ホースや飲料水等）を背負い、全行程約 30 kmの野外訓練に臨みました。

この訓練は、野外での集団訓練を通じて消防職員が消防活動を遂行するために必要な脚力、持久力等の体力並びに強靭な精神力と共同精神を成熟させることを目的とした大変厳しい訓練です。

資器材を携行し整列

開 始 式

三沢学校長訓示

出発前の体力向上体操

出 発

訓練想定

被災した災害現場には車両等で向かうことができないため、徒歩にて現場に向かう。浜石岳山頂は行程の中間地点であり、最終目的地（被災地）は消防学校である。目的地に着いたら、現場活動が待っていることを念頭に活動すること。

浜石岳への行程

仲間と任務遂行

浜石岳山頂

全体目標

全員が最後まで諦めず、１人も離脱することなく万全な状態で目的地にたどり着くこと。

班別目標

１班	寮室の垣根を越えて、１班全員で協力して誰１人欠けることなく完歩する	４班	事前準備を全力を挙げて取り組み、当日準備の成果を出し切る
２班	共に助け合って、全員完歩	５班	一人一人が互いに支え合い、班で団結し、全員で目的地に辿り着く
３班	常に周りに気を配り、やりきる！	６班	１０人で助け合って、リタイア者ゼロ！

野外訓練行程表

	行　　程（実績時間）	距離・所要時間
1	消防学校 → 薩埵峠駐車場 8:04 出発　8:45	3.0km　41 分
	（第１回休憩　10 分）	
2	薩埵峠駐車場 → バーベキュー場 8:55　9:56	4.9km　61 分
	（第２回休憩　14 分）	
3	バーベキュー場 → 浜石岳野外センター 10:10　11:35	3.7km　85 分
	（第３回休憩　10 分）	
4	浜石岳野外センター → 浜石岳山頂 11:45　12:28	一部山道ルート 43 分
	（第４回休憩「昼食」42 分）	
5	浜石岳山頂 → 浜石岳野外センター 13:10　13:43	一部山道ルート 33 分
	（第５回休憩　10 分）	
6	浜石岳野外センター → バーベキュー場 13:53　14:45	3.7km　52 分
	（第６回休憩　5 分）	
7	バーベキュー場 → 由比駅東公園 14:50　15:18	2.3km　28 分
	（第７回休憩　10 分）	
8	由比駅東公園 → 薩埵峠駐車場 15:28　16:16	3.2km　48 分
	（第８回休憩　10 分）	
9	薩埵峠駐車場 → 消防学校 16:26　17:07	3.0km　41 分

学生感想

・野外訓練を通じて、特に集団での共同精神の重要性を感じることができた。今回の行程を自分一人だけで歩ききることは無理だと思う。部屋員、班員、94 期全体の支えがあったことで自分は最後まで完歩できたと感じる。

・訓練で得たことは、協力することの大切さを実感できたことが一番だと思いました。１人では到底完歩することができなかったと思います。部屋員、班の仲間、94 期のみんなが１つの目標に向かって団結して臨むことができて、大きな力になり仲間の存在の大きさを感じました。

・仲間と鼓舞しあいながら困難を乗り越えたことにより、仲間と絆が生まれ深まったと実感できた。

・仲間に助けてもらったので完歩できた。第２回野外訓練では仲間を助けられるように、しっかりと体力をつけて挑みたい。

担当教官から一言

４月に入校した初任科学生は日々厳しい訓練を実施してきました。この野外訓練は、自分達がどれほど成長したかを計り知る機会でもありました。

開始式に整列した学生達は、入校当初のあどけない顔つきとは全く違う、凛々しい顔つきの姿がそこにはありました。この日は薄曇りで気温も上がりませんでしたが、急斜面の山道が体力を奪い続け、とても過酷な訓練となりました。お互いが鼓舞し合い、全員が前だけを見据え一歩ずつ直向きに進んで行きました。消防人としての意識と覚悟を胸に、任務を完遂すべく、仲間と手をつなぎ進む中で、共同精神が成熟し絆が深まったことと思います。

１割程度のリタイヤ者が発生したことや、到着予定時間を超過したことは悔やまれましたが、一人一人の学生にとって野外訓練を経験しやり切ったことは、大いに自信になったはずです。仲間と協力し助け合ったこの気持ちを忘れずに、さらなる成長を期待します。　　教務課主査　飯塚　誠（静岡市消防局から派遣）

初任科　雨中での訓練　～　雨ニモマケズ　～

出動要請・救助要請は晴天の日ばかりではありません。

消防学校では、雨天であろうと訓練を実施しています。

学生は、合羽を着ての雨中での訓練を行っています。

学生は、「一秒でも早く、人の命を助ける」信念のもと、雨の日も暑い日も、頑張って訓練をしています。

初任科第94期ホットトレーニング

５月 30 日（火）31 日（水）の２日間、ホットトレーニングを実施しました。

この訓練では、①建物火災における火災現場に類似した熱環境及び濃煙を体感すること　②火災初期からの成長過程を確認すること　③個人装備品の重要性を理解すること　の３つの目的を学生に伝え訓練に臨みました。

座学で火災理論は学んでいるものの、現場経験のない学生にとって、それだけでは熱環境の状況は十分に理解できていないものと推察できます。学生の理解力を向上させるためにも、この施設を利用して実火災に近い熱環境を体験することで、火災性状の理解と火災の危険性を感じさせるため訓練を行いました。

（担当教官から）

建築建材や建物内容物の変化により、熱放出率の増大や気密性向上に伴う火災性状の変化、消火困難性の拡大など、消火活動はより高度な知識と技術が必要となっています。

火災性状を理解することは、消防活動を行う上で必須の知識であり、初任科学生は、この訓練によって、座学で学んだ火災理論についてより理解が深まったことでしょう。

現場経験のない学生にとってこの場で実火災を疑似体験ができたことは、貴重な経験になったことと思います。今後の訓練や、所属へ戻ってからの現場活動に活かしてほしいです。

教務課主査　仲村　直樹（下田消防本部から派遣）

ロープ高所作業、フルハーネス型墜落制止用器具特別講習

【フルハーネス関連法令改正】

改正の内容

①法令上、「安全帯」の名称を「墜落制止用器具」に改めた。

②「墜落制止用器具」は、作業内容や作業箇所の高さ等に応じた性能を持つものであることとされた。(6.75mを超える場所での作業はフルハーネス型でなければならない等)

③作業床のない高さが２m以上の場所で、フルハーネス型の「墜落制止用器具」を用いて作業につかせるときは、「特別教育」を行なわなければならないこととされた。

【ロープ高所作業定義とライフラインの設置】

高さ２m以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて、昇降器具を用いて、労働者が昇降器具により身体を保持しつつ行う作業（40 度未満の斜面における作業を除く）であるロープ高所作業につかせるときは、「特別教育」を行わなければならないこととされた。

上述の特別教育について、これまで既存の座学や実科訓練の中に盛り込んでいましたが、今年度から、初任教育のカリキュラムに特別講習として明確に位置づけました。消防職員にとって安全管理とは「殉職者を絶対に出さないこと」であることを学生に伝え特別講習を実施しました。

（志太消防本部より派遣　　教務課　望月竜之介）

特別講習内容

【ロープ高所作業】

1　ロープ高所作業に関する知識	1 時間	座学
2　メインロープ等に関する知識	1 時間	
3　労働災害の防止に関する知識	1 時間	
4　関係法令	1 時間	
5　ロープ高所作業の方法、墜落による労働災害の防止のための処置並びに墜落制止用器具及び保護帽の取扱い	2 時間	実科
6　メインロープ等の点検	1 時間	

【フルハーネス型墜落制止用器具】

1　作業に関する知識	1 時間	座学
2　フルハーネス型墜落制止用器具に関する知識	2 時間	
3　労働災害の防止に関する	1 時間	
4　関係法令	0.5 時間	
5　墜落制止用器具の使用方法等	2 時間	実科

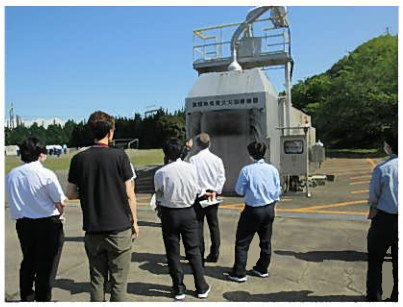
特別講習座学

ロープ高所作業実科訓練

40 度以上の斜面降下訓練

フルハーネス着装訓練

危機管理部新任職員等現地視察研修



５月 24 日（水）に、静岡県危機管理部に転入してきた職員 10 人が視察研修に訪れました。

教育訓練の概要の説明を受けた後、校内施設と初任科生の訓練を見学しました。

学生の訓練に取り組む真摯な態度と、教官の厳しい指導の様子を見て、いざという時に頼りになる消防職員は日々の地道な鍛錬のたまものである事を感じたことと思います。そして、危機管理部の職員として、日々の準備の大切さを改めて認識したことと思います。

三沢校長から一言

初任科生が入校して早や３か月、相変わらず教官に怒鳴られてばかりですが、私には彼らがずいぶんたくましくなったように感じます。

今日は火点に向かってホースを伸ばし、放水後にホースを巻き取る訓練を実施しています。

ホースはまっすぐに伸び、巻き方もしっかりして、担いでもほどけません。

４月当初は巻き取りが遅い上、担ぐときはふらつき、巻きが甘いために肩の上でほどけてしまう、そんな姿をみかけたものです。

いよいよ今週は副校長→校長と続く通常点検、合格すれば点検は週１回に減ります。宮田副校長は「今のままでは・・・」との感想でしたが果たして？

これからますます暑くなり、訓練も佳境に入ります。学生はもちろん、教官も健康に留意してがんばってほしいですね。

半ページの執筆ですが、慣れていないこともあり、小ネタを拾っておかないと簡単ではありません。思いついたらなにしろメモ、しばらくは小ネタに専念します。

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190　FAX 054-369-1197　E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内･紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校　検索